

福祉文教常任委員会所管事務調査報告書

令和7年6月16日

別海町議会議長 西 原 浩 様

福祉文教常任委員長 外 山 浩 司

福祉文教常任委員会における所管事務調査に係る福祉文教常任委員会協議会の協議結果について、次のとおり報告します。

記

1 開催日時

(1) 第3回常任委員会

令和7年6月16日（月）10時から14時まで

(2) 第4回常任委員会協議会

令和7年6月16日（月）14時から15時まで

2 開催場所

委員会室4

3 出席委員

外山委員長、横田副委員長、中村委員、田村委員、貞宗委員、伊勢委員、吉田委員

4 欠席委員

なし

5 委員外

なし

6 調査事件及び協議結果

(1) 第7次別海町総合計画・第7次実施計画について（教育委員会）

・・・調査継続

①町営スケートリンク整備事業について

令和9年度に約6億円の事業費で計画されているが、現在のリンクを改修する旨の説明と、ふるさと交流館周辺の地域活性化拠点再生構想に併せて決定していく説明とがあり、実施方法が不透明である。

令和8年度に実施設計が計画されているが、仮に場所を移して建設するのであれば、基本設計を行う必要があると考える。

②青少年の居場所づくりについて

昨年度の調査では、令和6年度に検討委員会を立ち上げ取り組んでいく予定だったが、1年遅れの令和7年度立ち上げに変わっている。

利用している小学生・中学生・高校生のためにも早急の対応が必要である。

③小・中学校の適正配置について

上風連小学校と上春別小学校が複式学級となっており、今後、野付小学校でも一部複式学級になる見込みがある。

仮に上風連地区の児童生徒が別海地区の学校に通学することとなった場合、現在計画している義務教育学校の規模等に影響が出ることも考えられるため、保護者や地域の声を大切にしながら、将来を見据えた動きをしていくことが大切である。

(2) 第7次別海町総合計画・第7次実施計画について（福祉部）・・・調査継続

①ケアハウス整備事業及び老人保健施設整備事業について

各施設の延命化が図られ、10年後、20年後まで使用されていくことになると考えるが、町長の行政執行方針では「50年先を見据えた事業の展開」とあった。

今後、職員は50年先を見通して事業を計画し、実施していく必要があるものと考えているが、そこまでの長期スパンで計画を立てることは難しいのではないかと。

②各地域活性化拠点再生構想について

将来、ケアハウスの移転の声が聞かれるが、これは地域活性化拠点再生構想の中で整理されていく方向である。

また、旧消防署の解体が決まったが、現在利用している団体の移転場所が今後不明であり、旧公民館については、解体するのか社会福祉施設として再利用するのか不透明である。

これらについても地域活性化拠点再生構想でまとめられていくことと思われるが、各地域ごとに抱える諸課題を十分に検討し、解消できるような構想としていただきたい。

(3) 第7次別海町総合計画・第7次実施計画について（別海病院）・・・調査継続

今年度実施予定事業については、計画どおり粛々と進めていただきたい。

経営面においては、令和5年度末に実質2名の常勤医師が退職し、外来患者・入院患者の減少による収益減となっている。内科医については、現在1名体制であることから、経営の安定化のため、医師確保に向けた理事者の働きかけが大切である。

また、9億円前後だった町からの繰入金も、今年度は11億円に膨らんでいることから、今後は経営改善として令和5年3月に作成した「町立別海病院経営強化プラン」の調査を行っていく。

(4) 第7次別海町総合計画・第7次実施計画について（保健生活部）

・・・調査継続

今年度実施予定事業については、計画どおり粛々と進めていただきたい。

こども家庭センターについては、4月に釧根地区で最初に開設されたセンターであり、今後は、その運営状況と、地域おこし協力隊員の協力体制について調査を行っていく。

(5) その他

前回会議時において、斜里町の学校を視察先の候補地としていたが、湧別町の上湧別学園を候補地に変更する。